

令和4年4月19日

國分良成講師ご講演の口述筆記録

【自己紹介】

ディレクトフォースとは7年ぶりです。 同級生の石毛さんからの依頼で本日ここに居ます。

依頼を請けた段階ではウクライナ問題は想像すらしていなかった。

香港、ミャンマー、台湾問題からウクライナとメディアの関心事は移り変わって話題からは消えているが、実はどこも解決していない。

ウクライナ問題の今は陸上戦闘が分からないと適切な説明ができない状況

思ったより弱いロシアは権威主義体制の大きな問題の一面でもある

トランプの反動で権威主義体制が注目されたが結果を急がない方が良い。

私自身は地域研究で中から見るのが自分のスタイルです。

1. 内政（すべては習近平権力の確立過程⇒今年秋の第20回党大会への布石）

習近平としては体制を固め更に5年×2=10年を盤石にすることに専念しており、秋以降の人事が最大の関心事である。

中国に関しては90%内政から見るべきです。 外交面ではアメリカとの関係が大きなファクター。

習近平の10年の成果とは、

* 監視体制の整備強化

* 反腐敗闘争は成果の一つ 中国共産党は世界最大の汚職集団だった

（江沢民が作った社会主義市場経済。今は鄧小平の名前も出せない。）

南巡講話は否定された

* 改革開放という言葉も出ない。 そこから生まれたのが腐敗だったし江沢民は懐に入れるのを実質OKした。

胡錦濤は成長率が落ちていく中で党の浄化を言ったが無視された（9人中6人が江沢民系だった。

全てが権力闘争に絡んでいる。（選挙もないので常に隠微な権力闘争が行われている）

習近平が一挙に腐敗を根絶しようとしたが共産党全体が腐敗していたので一気にはできなかった。

2014年大番頭だった周永康を倒した途端に大きく変わったが現在も腐敗は続いている。

今でも江沢民系・胡錦濤系も残っている。

現首相は胡錦濤系だが形しか残っていない。秋も残る可能性

- ・ 反腐敗闘争（2012年～）⇒大衆の支持獲得

- ・ 権力闘争：2014年周永康（江沢民派）・令計画（胡錦濤派）失脚⇒憲法改正（2018年）

- ・ 「歴史決議」2021年に出した：鄧小平（先富論・改革開放）路線からの決別⇒習近平路線正当化（共同富裕）・・・如何に偉大かを示した。中間層や有識者に不満が溜まっている。

- ・ 香港の体制転換（一国二制度の実質的終焉）

⇒大陸への民主的影響の波及阻止のために香港を潰した。（経済的に元に戻れば何とか抑えられる

問題意識のある人は台湾に移っている

- ・ チベットと新疆ウイグルへの政治的圧力⇒周辺不安定化除去

- ・ アリババ問題+恒大問題=民営企業（政治的紐帯）締め付け

馬雲は江沢民系、香港は江沢民、マカオは李鵬の権益

- ・ 台湾問題+対米関係=強硬姿勢の明確化と反応チェック

台湾緊張は習近平に塩を送ること台湾問題=米中関係

遂に舵を切った：アメリカを直接批判し始めた（トランプ政権の足元（分断）を見た）・・・が、アメリカが本気で怒り始めたのでウクライナをアメリカの陰謀と

言っている。

・北京オリンピック・パラリンピック

習近平はこの10年、自分の権力を固めることに没頭してきた

2. 習近平体制の強さと弱さ（強権支配の表面と陥穽）

・権威主義体制⇒人類史上最高の先端的監視体制⇒民意を無視⇒権威主義の限界（ロシア軍）

権威主義の軍隊は上の支持が無ければ動けない＝指揮官が現場に居ないと動けない：だから指揮官が沢山戦死している

・習近平体制の強権化（政敵の最終排除？）⇒恭順と沈黙⇒不満の潜在化＋個人独裁の陥穽

ここまで統制を強めなければいけない＝弱さの裏返し

江沢民系の排除の最後の詰めをやっている

・価値観の喪失：市場主義の限界、儒教の不適合、マルクス主義の形骸化 ⇒権力強化の目的？

習近平がやらなければいけない3つの事

①目的性・価値観：マルクス主義だから階層はあるが階級は無いという建前がある

一方で若い人達は表は服従、中は変わりつつある

大学卒が1000万人/年 昨年900万人中475万人が就職が無いので大学院を目指した

合格を200万人以下

失業率約20%（20代前半）が2年前、バブルははじけ始めている

成長の原動力をどこに求めるのか？

・共同富裕⇒再分配（社会主義）強化⇒成長鈍化との矛盾：バブル、インフレ、雇用、産業

- ・ 中間層（3～4億人）の支持⇒成長鈍化による中間層の分裂
- ・ 共産党と海外資本との一体化⇒市場化の遅れと海外資本の流動性

3. ウクライナ情勢と中国（米中露関係）

習近平は大変な状況である。今は押さえつけるしかない、夢は？ 中華民国復活？

- ・ 当初は歓喜⇒中国批判の軽減、世界が中国の仲介を期待した。

米国不介入、新疆・チベット・香港の事前処理（ウクライナのようにならなかった）

・ 予想外のロシア軍の苦戦＋世界的なロシア批判の合唱⇒より内政不干渉の立場を鮮明に

- ・ ロシア軍の苦戦＋中国批判増長・孤立の可能性 ⇒選択的国際協調へ

・ 内部では「アメリカの陰謀」⇒対欧米接近の機会喪失(NATO嫌悪) ⇒侵略者への加担鮮明に

・ 歴史：1968年チェコ事件（プラハの春）⇒「ソ連社会帝国主義」⇒50年前、毛沢東は対米接近

⇒中国台頭へ

実は中国の国際貢献は一度、期待されたが失敗した（北朝鮮との仲介問題）

4. 日米中関係

中国の中では日中関係は意識されていない。

日本がアメリカと離れるなら、日本との関係を改善しようとするだろうが今はアメリカ批判が軸になっている。

- ・ 米国3つの対中思考：楽観論から悲観論へ

① 西側モデル＝近代化論 ② 「中体西洋」≒誘引策 ③ 中国は中国（キッシンジャー）

・ 60年代、皆アメリカのような西洋的な国を目指す（鄧小平路線）という勘違い

・ 70～80年代、中国は変わらない（キッシンジャー）

・ 90年代以降の関与政策：ブッシュ⇒クリントン⇒ブッシュ ジュニア⇒オバマ
≡近代化論（鄧小平路線）

・ engagement（関与）の終焉 ⇒全面对決 それとも経済的 with China?

・ 台湾問題の危険度：米国の対応+台湾の対応⇔中国の対応⇒台湾侵攻の可能性？

慎重に考える必要がある。台湾の中を良く見ないといけない。（アンケート調査でも楽観的）

李登輝と今とどちらが危険か？

李登輝の方が危険（1999年「中華民国と中華人民共和国は別な国」と言った。

今はそこまでではない『お互いに隷属しない』微妙だが。

・ 台湾有事=ハイブリッド戦：諜報、サイバー、ドローン、島嶼、正規戦・・・
「統一」はゼロか？

何故、アメリカはイージス艦を台湾に売らないか、理由がある。

・ 日本の対中政策に米国型 engagement はあったか？

・ 日中関係：国交正常化 50周年 ⇒難しい習近平国賓来日、戦略的互惠関係？

・ 台湾より危険な日本？

・ 政治⇔経済、抑止⇔対話⇒最大のテーマの東シナ海（点ではなく面として）

おわりに

・ 日米同盟（一番大事）+ QUAD（日米豪印）+ 日韓+ G7+ G20+ ASEAN+ 対中対話（必要性が高い／どうやってやるか、学者レベルも殆ど居ない（アメリカの学者は行っている））

・ 防衛力=外交力=インテリジェンス

東シナ海は危険（本当に衝突の可能性はある）

自衛隊の要員不足は深刻な状況

*ウクライナのサイバー戦：何故ロシアが負けているのか？

時間が立てば真実が分かるだろう。

外交力とインテリジェンスが大事。

アメリカやイギリスとしっかり組む為にもインテリジェンスの提供を行うことも大事。

【質疑応答】

Q1：吉崎会員

ウクライナ問題で中国がアメリカの陰謀と言っているのは事実なのか？

A1：國分良成講師

私としては「陰謀説」には根拠がないと考えている。

情報判断のミスだと思われる。

Q2：(東條保子会員)

陰謀は世界中にあるのに日本はインテリジェンスが弱いので抑止力として核は持つべきか？

A2：核がどこにある、という事を明かすのはアメリカが反対するだろう（最高軍事機密である）

最高の軍事機密は日本には教えてくれない。

寧ろ、(抑止力という観点では) 日米同盟をきちんとすれば良い

国防費の GDP 2% 議論もあるが若い世代の社会保障の悪化が見えている中で軍事関係の労働力が足りないので装備をアメリカから買わざるを得ない。

以上（新庄正彦）